

地球を守れ!

2005(平成17)年7月2日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★★



監督・脚本=チャン・ジュヌアン/出演=シン・ハギユン/ペク・ユンシク/ファン・ジョンミン/イ・ジェヨン/イ・ジュヒョン/イ・ジュボン (エスピーオー配給/2003年韓国映画/117分)

……タイトルだけでは何の映画かさっぱりわからないが、超お薦め作！ 悲惨で過酷な公害問題や労働問題（労働争議）という深刻な社会問題とSF的でバカげたエイリアン物語が見事に融合し、不思議な世界を……？ 主役のシン・ハギユンの珍しくエキセントリックな演技もいいが、圧巻は誘拐されたカン社長を演じるペク・ユンシクの熱演！ この映画を観ると、「皆既月食」について、より興味が深まるかも……？

こりゃ異色！ 話題作！ 各賞受賞！ しかしR-18指定！

タイトルからは一体何の映画かさっぱりわからないが、コマーシャル写真を見たりちょっとした解説を読むと、何とアンドロメダ星雲からやってきたエイリアンから地球を守るという映画らしい……？ その内容は一体……？ 2003年に韓国で公開されたこの映画は、モスクワ国際映画祭監督賞をはじめ各種の賞で主演男優賞、助演男優賞、新人監督賞などを総ナメにした話題作だが、日本では何とR-18指定とされていた。それは一体なぜ……？

悲惨な公害問題と労働争議

この映画には悲惨な社会問題と現代社会への警鐘が満載。最近日本では「動機なき殺人」などワケのわからない犯罪が流行っている(?)が、この映画はそうではない。イ・ピョング(シン・ハギユン)がカン・マンシク社長(ペク・ユンシク)をエイリアンだと信じるようになったワケ、そして「皆既月食までにエイ

リアンのロイヤル遺伝子コードの持ち主を捕まえないと、地球は滅亡してしまう……」と信じ、遂にカン社長の拉致監禁を執行したワケは、この映画を観ていると十分理解できる。

ビヨングの父が死亡したのは炭鉱内における過酷な労働条件と公害問題。またビヨングの恋人が撲殺されたのは労働争議の現場。そして、ビヨングの母親が5年前から昏睡状態となったのは……？

坂和流、日中韓社長サン比較

バブル景気の時代は、日本の社長サンは偉かった(?)し、韓国や中国旅行によく出向いていた男性観光(?)客はみんな「社長サン、社長サン」と呼ばれて得意気になっていたもの……？ しかし、今や日本の社長サンのランクはガタ落ち……？

それに比べると、今や中国共産党に入ることまで許された中国の私企業の社長サンの地位は急上昇……。そして韓国では、多分浮き沈みは日本以上に厳しいのだろうが、社長サンのバイタリティは日本より数段上……？

それは、アンドロメダ星雲からやってきたエイリアンだとビヨングに誤解され、拉致監禁されることになったユジェ化学のカン社長の脱出するための執念ぶりを見ればよくわかる……？

これぞ怪演！ カン社長

それにしてもこの映画でのペク・ユンシクの怪演はすごい！ ユジェ化学社の社長らしいスーツ、ネクタイ姿は最初だけ。その後、ほとんどはパンツ1枚の姿で鉄の鎖でイスにつながれた上、アンドロメダ星雲とのテレパシーを防止するため、頭髪まで丸刈りに……。そしてビヨングからエイリアンだと認めると責められて、各種の拷問を……。

しかし、並外れた頭脳と何が何でも脱出しようと願う執念と気力を持っているカン社長は、再三脱出を試み、そのたびにビヨングと対決。しかし、もともと圧倒的不利な状況下におかれているカン社長は、その度に失敗し更なる拷問を受けることになるのだが……。

シン・ハギユンの熱演にも拍手！

ビヨングを演ずるシン・ハギユンは、最近の『マイ・ブラザー』（04年）でも、やさしい兄の役を演じた俳優で、『地球を守れ！』と同じ年に公開された『天国からの手紙』（03年）でも、素朴で純粋な青年役を好演していたが、この『地球を守れ！』での演技はこれぞ熱演といえるもの！ 一体何度殺されかかったか、また一体どれほど怒鳴ったか、そして他方いかにエイリアンの研究を続け、クールにエイリアン社長と対峙したか、この映画における主人公ビヨングの「狂気」を見事に演じたシン・ハギユンの熱演にも拍手。

脇役陣も超異色！

この映画最大の特徴は主人公ビヨングのパーソナリティが超異色なことだが、それに対応して（？）脇役陣も超異色！ その第1は狂信的にカン社長＝エイリアンだと信じているビヨングを慕う女性スニ（ファン・ジョンミン）。スニはちょっと太めながらサーカスで見事な綱渡りの芸を見せる女性。このスニの気持や行動を見ていると女性客の多くが切なくなってくるのでは……？

第2は拉致監禁事件の捜査を進める警察の中にいる超ハグレ者刑事のチュ（イ・ジェヨン）。組織に頼る多くの警察官に対してチュ刑事は独自のカンと嗅覚から捜査を開始し、犯人を突き止めたが……。

第3はチュ刑事とはまったく逆の新米刑事のキム（イ・ジュヒョン）。キム刑事は新米ながら優秀な刑事として組織の一員に加えられていたが、個人的にはチュ刑事のファンであり、信奉者。したがってキム刑事にだけは、チュ刑事からの犯人発見！のメッセージが伝わりキム刑事はただ1人敢然と立ち上がったが……？

これらの脇役陣が要所要所で重要な役割を見事に演じているため、奇想天外なストーリーに厚みをもたせ、観客をぐいぐいと引きずり込んでいくことに……。

さて、地球は救えるのか？

この映画（だけ）は、いくらカンのいい観客でもストーリーを読むことはでき

ないだろう。もっとも、この映画のテーマは最初にビョングがエイリアンのカン社長の姿をスクリーンに映しながらスニに説明していることから明確にわかるように、そのタイトルどおり「地球を守る」ということ。ビョングがカン社長を拉致監禁したのは、あくまでそのような崇高な目的のためだが、皆既月食まではまだ数日ある（いや、もう数日しかない……？）。

そんな中監禁したカン社長は容易に口を割らないうえ、再三脱出の試みを。さらには、ビョングを慕ってビョングに協力していたスニを、エイリアン特有の能力によって（？）ビョングの元から引き離すという離れワザも……？ さて、ビョングの狙いどおりカン社長の「自白」を引き出し、有効な手を打つことによって「地球を守る」ことができるのだろうか？ そんな興味を最後まで持ち続けながら、この映画を楽しむことができれば最高……。

2005(平成17)年7月4日記

ミニコラム

チョンゲジョン

清溪川を守れ！

エイリアンから地球を守れたかどうかは映画上的お話だが、ソウル市の清溪川を守ったのは現実。いくら「公共事業を削減せよ」「美しい景観を守れ」と叫んでも、法制度的な裏付けと強力な政策実行能力がなければ絵に描いた餅。多数決を好まず、満場一致が好きな日本人はその傾向が強い。しかし韓国は大違いで、清溪川の復元工事をわずか3年間で完成させた。親北・反米政策をとる盧武鉉大統領の評判は芳しくないが、次期大統領選挙の対抗馬として注目を集めているのが現ソウル市

長の李明博。彼は今、野党ハンナラ党の党首で、朴正熙の長女という知名度を誇る朴槿恵をしのぐ人気を得ている。地下に埋もれ、どぶ川状態となっていた清溪川の復元工事を行うと宣言し、見事に実行したのがその一因だ。10月1日の復元記念式典は「李市長の大統領選出馬の遊説会場さながらだった」と10月5日付読売新聞は報じている。清溪川を守った公共事業は後世に残る偉業というべきだ。

2005（平成17）年10月18日記